

### 3 貧血症を呈した、薬剤性誘発による出血性膀胱炎に対し、漢方薬の加味法が奏功した例およびその類似疾患についての報告

医療法人社団 メディカフレンズゆう 湘南台  
腎泌尿器・漢方クリニック<sup>1)</sup>  
なかいファミリークリニック<sup>2)</sup>

友田 岳志<sup>1)</sup>、佐保田 珠弥<sup>1)</sup>、渡邊 岳志<sup>1,2)</sup>

#### 要旨

出血性膀胱炎は我々泌尿器科医にとってはごくありふれた疾患であるが、その中で原因が不明なものや易再発性のもの、出血の原疾患のコントロールが困難な症例が少なからず含まれ、対応に難渋するケースに多々遭遇することがある。

今回、抗凝固剤が原因とおもわれる出血性膀胱炎となり、コアグラタンポンナーデ、貧血症で受診となるが、芎帰膠艾湯の加味法で止血ができ、また、原疾患の為に抗凝固剤を再度継続使用しなければならなかったが、芎帰膠艾湯の加味法で再発がふせげた症例を提示し、また、その類似症例として、抗がん剤による出血性膀胱炎、特発性腎出血、放射線性膀胱炎についても報告する

結語 蔊帰膠艾湯の加味法はエキス製剤の併用のみ簡便法で、証を問わず、また少量かつ短期間で効果を確認でき、副作用の頻度も少ないと考えられるため、明らかな尿路上皮腫瘍や尿路結石症、感染症が鑑別できたならば、出血性膀胱炎の治療の選択肢と一つとして考えられると思われた。

(今回は貧血症、冷え性の適応がある。コタロー芎帰膠艾湯での報告となります。

ジュンコウ・ツムラの芎帰膠艾湯は痔出血、痔核のため、使用しておりません)